

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

令和5年度9月号

○ 概要

- (1) 令和5年度9月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は6,892億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+7.2%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,468円（伸び率+0.3%）であった。（→P.1,2）
調剤医療費の内訳は、技術料が1,839億円（伸び率+6.2%）、薬剤料が5,040億円（伸び率+7.6%）、薬剤料のうち、後発医薬品が944億円（伸び率+3.3%）であった。（→P.4,5）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,506円（伸び率+0.8%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、1種類当たり投薬日数、1種類1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.76種類（伸び率+0.3%）、27.1日（伸び率▲4.4%）、74円（伸び率+5.2%）であった。（→P.8,9）
- (3) 内服薬の薬剤料4,008億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）+290億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の722億円（伸び幅+38億円）で、伸び幅が最も高かったのは62 化学療法剤の+307億円（総額438億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	4,008 億円 (+290 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(722 億円)	21 循環器官用薬 (548 億円)	11 中枢神経系用薬 (535 億円)
0歳以上 5歳未満	18.4 億円 (+1.8 億円)	44 アレルギー用薬 (5.7 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.5 億円)	61 抗生物質製剤 (2.6 億円)
5歳以上 15歳未満	96.9 億円 (+21.3 億円)	44 アレルギー用薬 (29.9 億円)	11 中枢神経系用薬 (26.7 億円)	62 化学療法剤 (8.9 億円)
15歳以上 65歳未満	1,554 億円 (+203 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(277 億円)	11 中枢神経系用薬 (272 億円)	62 化学療法剤 (241 億円)
65歳以上 75歳未満	855 億円 (+2 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(186 億円)	42 腫瘍用薬 (143 億円)	21 循環器官用薬 (134 億円)
75歳以上	1,484 億円 (+62 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(252 億円)	21 循環器官用薬 (243 億円)	42 腫瘍用薬 (189 億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,468円（伸び率+0.3%）で、最も高かったのは高知県（11,349円（伸び率+1.3%））、最も低かったのは佐賀県（7,953円（伸び率+0.3%））であった。
また、伸び率が最も高かったのは群馬県（伸び率+2.3%）、最も低かったのは愛媛県（伸び率▲3.1%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注）}	84.6 %	+1.7 %
薬剤料ベース	18.7 %	▲0.8 %
後発品調剤率	80.6 %	+1.7 %
（参考）数量ベース（旧指標）	60.1 %	+1.4 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+3.3 %	+31.6 % (10歳以上 15歳未満)	▲5.5 % (70歳以上 75歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	18.7 %	28.1 % (100歳以上)	11.1 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	84.6 %	88.8 % (100歳以上)	80.6 % (5歳以上 10歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	805 億円 (+27 億円)	21 循環器官用薬 (248 億円)	11 中枢神経系用薬 (142 億円)	23 消化器官用薬 (97 億円)
0歳以上 5歳未満	6.7 億円 (+0.7 億円)	44 アレルギー用薬 (3.4 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.0 億円)	61 抗生物質製剤 (0.4 億円)
5歳以上 15歳未満	16.3 億円 (+3.8 億円)	44 アレルギー用薬 (8.3 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.5 億円)	11 中枢神経系用薬 (1.8 億円)
15歳以上 65歳未満	286 億円 (+21 億円)	21 循環器官用薬 (71 億円)	11 中枢神経系用薬 (67 億円)	44 アレルギー用薬 (28 億円)
65歳以上 75歳未満	171 億円 (▲7 億円)	21 循環器官用薬 (65 億円)	11 中枢神経系用薬 (21 億円)	23 消化器官用薬 (21 億円)
75歳以上	326 億円 (+9 億円)	21 循環器官用薬 (112 億円)	11 中枢神経系用薬 (52 億円)	23 消化器官用薬 (48 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料	1,297 円	1,675 円(北海道)	1,104 円(佐賀県)
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲3.4%	▲0.3 % (島根県)	▲4.9 % (岡山県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	84.6 %	91.0 % (沖縄県)	80.8 % (徳島県)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	18.7 %	21.7 % (鹿児島県)	16.4 % (京都府)
後発医薬品調剤率	80.6 %	86.3 % (沖縄県)	76.8 % (東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	60.1 %	67.6 % (沖縄県)	56.5 % (東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和5年度9月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。